

東日本大震災と大学の役割（第1報）

国際印刷大学校 木下 堯博

チェルノブイリ原発事故に匹敵するとも言われている3月11日の東日本大震災による福島第一原発の事故は、今後の廃炉への推移が国際的にも注目されている。

日本のプルサーマルの一号機である佐賀の玄海原子力発電所を昨年、訪問する機会があったが、1台の原子力発電の規模は6階建相当の建造物に匹敵する高さで巨大である。

人類社会は人間の英知により文明が構築されているが、それが特定の勢力や権力により、歪曲される事例もある。20世紀の初頭、アメリカの自動車産業は発展途上にあつた鉄道事業を駆逐した。しかし、このアメリカの自動車産業も日本やドイツ・韓国の燃費の良い、中・小型乗用車に入れ替わった。この推移の背景には日本の専門分野の教育・研究が寄与していて、「自動車工学や交通工学科」は4大学、8短大、トヨタ自動車大学校などがあり、自動車工学の研究領域の裾野は広い。一方、「原子力工学科」は国立大学から姿を消し、わずかに私立2大学に減少していった。原子力発電の事故の遠因はこのように専門とする学科が消滅していったことにも起因しているであろう。釜山近郊で国際原子力大学院が新設されるが、原子力発電に対する科学的意欲に日本との相違が感じられる。

印刷を教育・研究する「印刷工学科」は全国の大学からすべて姿を消し、印刷分野の研究は広がりが少なくなった。大震災により、インキや印刷用紙の供給が厳しくなったとの報道があるが、その代替え材料の開発や印刷適性の日頃の研究が進展していない結果ともいえよう。韓国の印刷系大学では海底にある藻から用紙を作る研究が行なわれていて、その印刷適性も学会で発表されていた。

4月13日からのTBSでのファインテックジャパン展でのプリンタブル・エレクトロニクスの展開は将来、原子力発電に代わり、ソーラーエネルギーの拡大を目指すものであり、来日した釜慶大学印刷学科の南教授らと交流を行った。

本学ではいち早く、韓国に出張し、機材と人材の供給の基本となる「日韓共同・印刷支援センター」を立ち上げ4月21日号の印刷新報で報告した。更に、余震の続くなか、微力であるが、各県の印刷企業の災害調査と支援を行っている。一日も早く、今回の災害から復興されることを願ってやみません。 (印刷情報6月号原稿、2011年4月26日記)



写真；インチョンポリテク大学印刷情報メディア学科

インチョンポリテク大学の印刷情報メディア学科では太陽電池の開発をしていて、スクリーン印刷を利用し、パターン形成の教育・研究を行っている。

〒811-4163 福岡県宗像市自由ヶ丘10-10-8

Tel&Fax 0940-33-2889

国際印刷大学校事務局〒189-0002 東京都東村山市青葉町2-29-12

Tel 042-395-5561, Fax 042-392-8216

MP 070-5694-0174, URL; <http://www.media-igu.com>, E-mail; kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp
